

Letter from the Library

～図書館からのお手紙～

太秦中学校図書館 2019.7.12

本の世界 ♪

先日、図書館で、こんな光景に出あいました。ある1、2年生の人が（部活の先輩と後輩のようです。）守り人シリーズをかかれた上橋菜穂子さん著『獣の奏者』の貸しかりをしていたのですが、なんと、目を輝かせながら物語を語る2年生のNさんと、そして、それを嬉しそうに聞き、わくわくしながら、本をうけとる1年生のTさん。本を通してこの様なやりとりが行われること、そして、どっぷりと物語の世界に入っていけることに、中学生の力はすごいなあと、なんだか羨ましくもなりました。

ところで、上橋菜穂子さん著の『物語と歩いてきた道』という本には、こんなことが書かれてありました。『“物語を読むこと”は、つまり他者を想像することであり、他者を思いやる力そのものです。』と。

自分の人生は一度きりしかないけど、読書をすることで、自分とは違った家庭環境で育ってみたり、また世界を旅したり、恋をしたり、何度もいろいろな人生を経験できます。

そして、読み終えた時の、言葉にはできないなんともいえない満足感、その物語に思いをもう一度馳せることができるあの時間は、とても贅沢な時間です。

どうぞ、この夏休み、1冊の本を読みきる挑戦をしてください。中学校生活3年間をこえて、人生をかけて「大きな力」がつくはずです。

私も、長編小説5冊は、挑戦しようと考えています！！



令和元年 夏休み 司書のイチオシ！

『獣の奏者』 上橋菜穂子 著



母親の処刑により、孤児となってしまったエリンは、その村にいることができなくなり、村を出ます。母の死を受け入れることができず、母が残した言葉の意味もわからないまま、心の中が整理されないまま旅をし、旅で出あう人々の話から、自分の生き方を一生懸命考えようとしています。最後に自分で見つけ出した答えは素晴らしいものでした。

『走れ！T校バスケット部』 松崎洋 著

主人公の陽一は、中学時代バスケット部部長として皆の注目の的でした。関東大会2位という成績を収め、バスケットボールの名門校に入学するのですが、その後、部活内で陰湿なイジメをうけることになってしまいました。傷つき悲しい気持ちで転校した陽一を迎えてくれたのは、T校の弱小バスケット部の4人の友達。もうバスケをやるつもりはなかったけれど、4人につられてバスケに触れていきます。さあT校バスケット部はどうなるのでしょうか。



『生きる 劉 連仁（リュウ リエンレン）の物語』

森越智子 著



何としてもおれは生き延びよう。生き延びてさえいれば、いつの日か故郷へ帰れる日が必ず来る。

— 1944年9月、日本軍により中国から連れ去られた劉 連仁（リュウ リエンレン）。かこくな炭鉱労働から逃亡し北海道の山中で一人、13年間生き抜いたのです。人としての生きる意味を取り戻していく物語です。

☆他にもまだまだ、おすすめの本を置いていますよ。